

外国からみた歌舞伎

歌舞伎は独自の様式美の奥に万人の心を打つ普遍的ドラマをもつことが、海外公演の反響によって実証確認された。1960年の史上初のアメリカ公演以来、文芸顧問として同行した体験に基づき、歌舞伎の普遍性と特殊性を具体的に解析し、歌舞伎乃至日本の伝統美の国際的地位を考える。

講師 河竹 登志夫 氏

(文化功労者、早稲田大学名誉教授、日本演劇協会会長、
文化庁芸術祭執行委員長、都民劇場理事長)

略 歴：大正13年 東京生まれ(幕末明治の歌舞伎作者である河竹黙阿弥の曾孫)
昭和21年 東京帝国大学理学部物理学科卒業
昭和26年 早稲田大学文学部芸術科演劇専攻卒業
昭和29年 " 大学院芸術学修了
昭和39年 早稲田大学文学部教授
昭和49年 ウィーン大学客員教授
平成2年 共立女子大学文芸学部教授

昭和35年から歌舞伎海外公演に文芸顧問として11回同行
オーストリア(ウィーン)科学アカデミー会員、東京都歴史文化財団・民族芸術交流協会・
放送文化基金他の理事、日本芸術文化振興会(国立劇場)・日本美術協会他の評議員等

受賞：芸術選奨文部大臣新人賞(「比較演劇学」南窓社)、読売文学賞(「作者の家」講談社)、
紫綬褒章、神奈川文化賞、小泉八雲賞・ダブリン市民賞(「歌舞伎美論」東京大学出版会)、
東京都教育長表彰(子供かぶき教室200回への貢献)、国際交流基金賞、勲三等旭日中授章、
恩賜賞・日本芸術院賞、文化功労者顕彰、早稲田大学芸術功労者表彰、NHK放送文化賞

主要著書：受賞となった上記3作他、「演劇の座標」(理想社)、「演劇概論」(東京大学出版会)、
「舞台の奥の日本 日本人の美意識」(TBSブリタニカ)、「酒は道づれ」(南窓社)、
「歌舞伎」(東京大学出版会)